

ヴァイオリン協奏曲の初稿版と改訂版



新田さんの解説で触れられていたシベリウスのヴァイオリン協奏曲の初稿版は、1991年に特別に遺族の許可を得て BIS に録音されたものが1種類あるだけです。この CD は現在でも容易に手に入りますし、このレーベルから最近出たシベリウス全集の中にも収録されています。

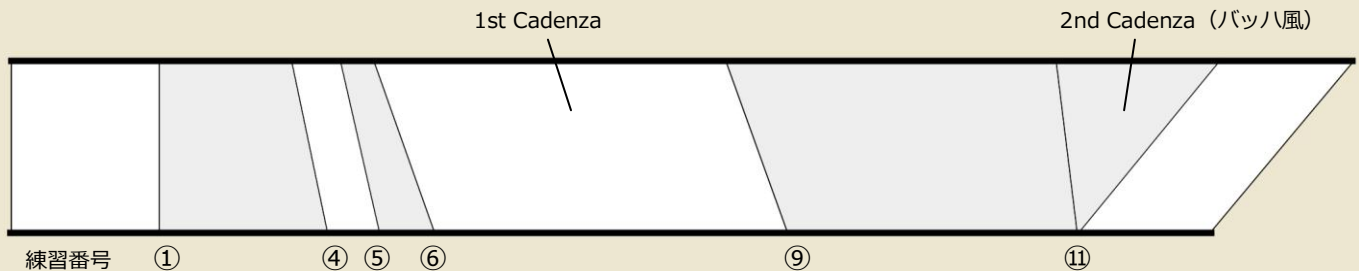
Leonidas Kavakos(Vn)
Osmo Vänskä/
Lahti Symphony Orchestra
BIS/CD-500

この CD にある Erkki Salmenhaara のライナーノーツを参考に、初稿版と改訂版（原稿版）との違いを調べてみました。

【第1楽章】

上段／初稿版：542小節、下段／改訂版：499小節（-43小節）

改訂版では 2nd Cadenza（64小節）をカット、その他の灰色の部分でも大規模な改訂が行われています。小節数の変わらない白い部分でも、オーケストレーションはかなり変わっています。



⑤のあとの提示部の最後では、モチーフの形が大きく変わっています。この初稿（上段）の厳しいモチーフは、この楽章の各所に登場しています。



【第2楽章】

小節数は 69 小節と、全く変わっていません。65 小節目（最後から 5 小節目）に、初稿版には入っていたカデンツァが、改訂版ではなくなった点が、最大の違いです。

【第3楽章】

上段／初稿版：326小節、下段／改訂版：268小節（-58小節）

初稿版では②の前にあった「ベートーヴェン風の新鮮なアイディア」が、改訂版ではカットされています。オーケストレーションもかなり変わっています。



② = 副主題